

創刊号切抜帖

週刊テレビガイド

「シャボン玉ホリデー」のザ・ピーナッツ。「ベン・ケーシー」のピンセント・エドワード。「時間ですよ」の天地真理。「コンバット」のビッグ・モロー。「てなもんや三度笠」の白木みゝの藤田まこと。「逃亡者」のデビット・ジャンセン。

「狂った果実」の石原裕次郎。これは、雑誌『週刊テレビガイド』の表紙を飾ったスターたちだ。それぞれの時代にテレビで活躍した顔だ。『週刊テレビガイド』の創刊は、昭和三十七年八月だから、もうかれこれ二十五年になる。NHKがテレビ放送を始めたのは、もう少し前の昭和二十八年だ。二月一日午後二時、「JOAK-TV、こちらはNHK東京テレビジョンであります」のアナウンスが第三チャンネルから流れた。民放では、昭和二十八年八月二十八日午前十一時二十分に日本テレビがスタートした。その当時は、午前はまったく放送がなく、午後七時半から九時までを中心に動いていた。

昭和三十年四月一日にKRテレビ(TBS)が開局。昭和三十四年二月一日日本教育テレビ(テレビ朝日)が放送開始。三月一日にフジテレビが開局した。放送局が増え、放送時間も少しずつ長くなり、番組の内容もバラエティになりつつあった。また昭和三十年代は、週刊誌の創刊ラッシュに始まり、いろいろな娯楽雑誌が生まれた時

代でもある。そんな状況の中に現われたのが、『週刊テレビガイド』である。

「ララミー牧場」で、アメリカ西部の生活を知った。ロバート・フラーのガン捌きに憧れ、銀玉鉄砲で練習したが、音が冴えなかった。「サーフサイド6」「ハワイアン・アイ」で、ハワイとサーフィンを知った。「スーパーマン」を見た次の日、風呂敷でマントをつくり、飛ばうと思ったが田圃に落ちた。やっとの思いで上がって来たらみんなが「臭い黄金バットだ！」と叫んで逃げていった。「快傑ハリマオ」を見た日、父のサングラスを壊して怒られた。同級生と取っ組み合いの喧嘩をした時、力道山のカラテチョップをやったが全然利かなかった。「青春とはなんだ」を見てラグビーを始めた。「暗闇五段」で柔道をやり、「おれは男だ」で剣道を始めた。

テレビは、テレビの歴史と共に生きてきた世代の人々に、ある時は夢をある時は悲しみを、喜びを、送り続けて来た。

『週刊テレビガイド』はその親切な案内人だ。(T・H)